

小学校音楽科における 思いや意図をもって曲想を生かした表現の工夫ができる児童の育成

～感じ取ったことを体の動きや図形で表す活動を通して～

音楽班 市村 宏美 (小学校教諭)

現状

- 鑑賞の場面・・・音楽を特徴付けている要素を聴き取れない！
- 歌唱・器楽表現の場面・・・どのように工夫したらいいかわからない！

何となく聴いて
何となく演奏・・・

目指す
児童像

- 鑑賞の場面・・・「はずんだ感じがする！」「なめらかな感じがする！」
- 歌唱・器楽表現の場面・・・「音を短くきってみよう！」「息を続けて演奏してみよう！」

題材「ふしのとくちょうを感じ取ろう」の実践

自分か感じたことを
工夫しながら演奏！

ねらい・・・旋律の特徴を感じ取って、想像豊かに聴く。

手だて① 体の動きで表す

鑑賞の場面

思い

ふしの感じの違いを
言葉で表してみる

なんとなく感じが違うけ
ど・・・どうちがう？

言葉の感じを体で表現すると・・・

「なめらかな感じ」や
「はずんだ感じ」の違いが
わかる！

思い



ねらい・・・旋律の特徴を生かして、歌い方や楽器の演奏の仕方を工夫する。

手だて② 図形で表す

歌唱・器楽表現の場面

自分で考えた図形を楽譜に貼ると・・・

「なめらかな感じ」と
「はずんだ感じ」のイメージを
図形で表してみたよ！

意図

思いや意図をもって
ふしの特徴（曲想）を
生かした表現の工夫が
できた！

結果

どうやったらふしの感
じがだせるのかな？

「なめらか」図形と
「はずんだ」図形を
楽譜に貼ってみよう！

思い

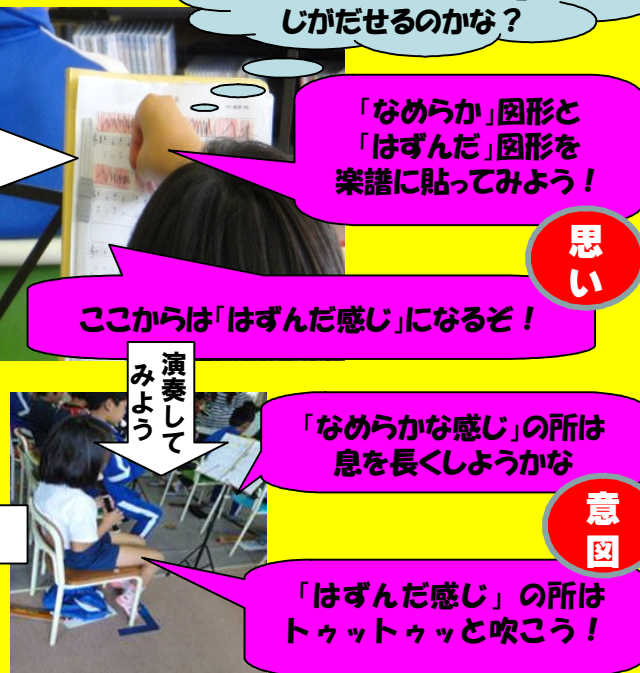
ここからは「はずんだ感じ」になるぞ！

演奏して
みよう

「なめらかな感じ」の所は
息を長くしようかな

意図

「はずんだ感じ」の所は
トゥットゥッと吹こう！



成果

○鑑賞の場面において、感じたことを言葉に置き換えてから体の動きで表す活動を取り入れることは旋律の特徴の違いをはっきりと感じ取ることに有効であった。

○歌唱表現や器楽表現の場面において、自分で考えた図形で表す活動を取り入れることは、自分がどんな演奏をしたいかが明確になり、表現の工夫することに有効であった。

課題

●速度や強弱、拍の流れやフレーズといった他の音楽を特徴付けている要素についても具体的な音楽活動を考えていく必要がある。